

編修趣意書

教育基本法との対照表

※受理番号	学校	教科	種目	学年
107-133	高等学校	芸術科	美術Ⅱ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	美Ⅱ 038-901	美術2		

▶ 1. 編修の基本方針

美術が、人を、社会を変えていく

「美術Ⅰ」では、美術の基礎的な力や、生涯にわたり美術を愛好する心情を育みました。「美術Ⅱ」では、「美術Ⅰ」の学習を基礎とし、主体性や独自性を生かして取り組みながら、美術と生活や社会とのつながりを感じ取れるよう、次のことを基底において編修しました。



特色

1

主題生成のための 手がかりを示す

—— 発想を広げる手立てや制作の過程を、詳しく紹介している教科書です。

...

各題材において、作品の発想のしかたや生徒の作例などを示し、生徒たちがみずから作品の主題を生み出せるようにしました。また、作家のスケッチブックを鑑賞するページを新たに設けました。作家の制作過程について知り、自分の表現に生かすことができます。

特色

2

美術文化への 理解をさらに深める

—— 日本の美術について、より深く学ぶことのできる教科書です。

...

伊藤若冲の作品「動植綵絵」を鑑賞する題材を新たに設定し、作品が描かれた背景や表現の特徴を詳しく解説しました。また、日本の現代美術やデザイン、建築を扱う年表を新たに設け、特に日本の美術史について、より一層理解を深めることができました。

特色

3

美術の可能性や 役割について 考える

—— 最新の技術を生かした作例や、社会の課題を解決する取り組みを取り上げた教科書です。

...

生成 AI を活用して制作された作品を掲載したり、環境問題や防災といった社会課題と向き合う題材を設定したりすることで、美術の可能性に目を向けるとともに、生活や社会における美術の役割について考えることができるようになりました。

特色

1

主題生成のための手がかりを示す

— 発想を広げる手立てや制作の過程を、詳しく紹介している教科書です。



紙面構成

表現のための手がかりが充実しています。

生徒の作例や制作過程などを紹介する「発想のヒント」や、作家が作品を制作する過程を詳しく紹介した「作家の手法」を随所に設けました。



交差する意志
油彩、キャンバス
90.0×118.7cm 2002年
横浜芸術院現代美術館蔵
(兵庫県)
横濱忠則
[1959～兵庫県出身]
横濱は、20年以上にわたりY字路をモチーフにした作品を描き続けている。この作品もそのうちの1点だ。

作家の言葉
Y字路は、自分で選んだ複数の写真資料を参考に描いています。家並の情景をそのまま描いているものは少なく、ほとんどの作品が、それぞれ違う場所で撮った写真の組み合わせになっているのです。そのイメージは、存在しているようで、存在していない。架空のY字路を描いているといえるのかも知れません。

発想のヒント

心の中の風景を描こう

自分の心に浮かぶ風景を、作品に表そう。



アイデアスケッチ2点。複雑な心情を表すために、モチーフや色づかいを検討した。

(生徒作品)

思春期 油彩、キャンバス
65.2×53cm

(作者の言葉)

誰もが一度は経験する思春期という時間を、みんなが通る交差点という場所で表しました。子供でも大人でもない高校時代を表現するため、中間色のグレーを多く使っています。画面奥のピンクで成長を表現しました。



The Kingdom
油彩、キャンバス
121.9×182.9cm 2017年
マシユウ・ウォン
[1994～2019 カナダ]

ウォンは、フィンセント・ファン・ゴッホから影響を受け、叙情的な風景画を多く描いた。制作にあたっては、下書きを行わず最初からキャンバスに油絵の具で描いたといわれる。シラカバの林はウォンが好きなモチーフ。この作品は、彼のシラカバの林から着想を得たと考えられている。

心の中の風景を描く 作家の手法

杉戸 洋



1970年生まれ。東京などのシラカバなモチーフを、軽やかな色とタッチで描いた作品で知られる。絵画だけでなく、立体作品などの制作にも取り組んでいる。

「目にした景色から、新しい世界が広がっていく」

作品を制作するときは、まず出発点となるモチーフや風景を、しっかりと見ることから始めます。その際は、なるべく絵を描こうという意識はもたないようにしています。心に残ったモチーフを繰り返し描いているうちに、描きたい線や重なりたい色が現れてきて、新しい世界が生まれていく。最終的には、自分でもなぜ出てきたのかわからないようなイメージを描きたいと思っています。

アトリエの様子



制作のための道具

道具や材料は自分が納得のいくものを使う。①は手づくりのキャンバス。②はキャンバスをつくらざるに使う釘。釘1本でも作品の見え方が変わるため、気に入った釘は保管し、繰り返し使っている。

アトリエの中には、制作途中の作品がずらりと掛けられている。作品を見ている時間も、制作の一部だという。

目をあければ
油彩、キャンバス 32×41cm 2013年
仕事場の扉を開け、目に飛び込んできた景色から着想を得て描いた作品。

「目をあければ」のための下絵。印象に残ったモチーフから描き始めていく。画面上部に描かれている緑色は大きな丸い木、下部の部分はその手前にはまっていた草。



●発想のヒント

生徒作品とともに、制作過程やアイデアスケッチ、作者の言葉などを掲載しました。生徒が作品を発想する際のヒントにすることができます。

●作家の手法

生徒の発想や構想のヒントになるよう、作家が作品をどのように発想し、どうつくりあげていくのかを詳しく紹介しました。

発想のヒント

心の中の風景を描こう

自分の心に浮かぶ風景を、作品に表そう。



アイデアスケッチ2点。複雑な心情を表すために、モチーフや色づかいを検討した。

(生徒作品)

思春期 油彩、キャンバス
65.2×53cm

(作者の言葉)

誰もが一度は経験する思春期という時間を、みんなが通る交差点という場所で表しました。子供でも大人でもない高校時代を表現するため、中間色のグレーを多く使っています。画面奥のピンクで成長を表現しました。



作家の手法 一覧

- 杉戸 洋 (P.9「心の中の風景を描く」)
- 目[mé] (P.23「不思議な空間をつくる」)
- 色部義昭 (P.51「統一感のあるデザイン」)

どちらも、発想を広げたり、制作を進めたりするときの参考になる内容だね。



▶ 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
はじめに	美術の活動へと誘う「人を、社会を変えていく」という文章を掲載し、生徒が真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うよう配慮した。【第一号】	P.2-3
絵画・彫刻	生徒自身が考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、各題材に目標を明示した。【第一号】	P.6-27
	互いの価値観を尊重しながら創造性を培うことができるよう、さまざまな発想のもとでつくられた作品を掲載するとともに、適宜「作者の言葉」を添えた。【第二号】	P.4-34
	現在活躍している作家を取り上げ、作品をつくるうえでの考えや制作過程を紹介した「作家の手法」を掲載し、作家としての生き方に触れ、勤労を重んずる態度を養うよう配慮した。【第二号】	P.9 P.23
	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うために、公共空間に設置された作品を取り上げた。【第三号】	P.23 P.27 P.33-34
	生命を尊び、自然を大切にすることを養うため、生き物や自然物などを表した作品を掲載した。【第四号】	P.10-17
	伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うため、我が国で大切にされてきた美術文化を積極的に掲載した。【第五号】	P.12-17 P.32-34
デザイン	生徒自身が考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、各題材に目標を明示した。【第一号】	P.44-55
	互いの価値観を尊重しながら創造性を培うことができるよう、さまざまな発想のもとでつくられた作品を掲載するとともに、適宜「作者の言葉」を添えた。【第二号】	P.43-60
	現在活躍している作家を取り上げ、作品をつくるうえでの考えや制作過程を紹介した「作家の手法」を掲載し、作家としての生き方に触れ、勤労を重んずる態度を養うよう配慮した。【第二号】	P.51
	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うために、サインや空間デザイン、建築など、公共の場におけるデザインの働きを取り上げた。【第三号】	P.46-51 P.60
	自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うため、環境に配慮したデザインを鑑賞する題材を設定した。【第四号】	P.52-53
	伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うため、我が国のデザインの発展についてまとめた年表を掲載した。【第五号】	P.58-59
映像メディア表現	生徒自身が考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、各題材に目標を明示した。【第一号】	P.62-69
	豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うために、新体操の公演の演出の例を掲載した。【第一号】	P.68
	互いの価値観を尊重しながら創造性を培うことができるよう、さまざまな発想のもとでつくられた作品を掲載するとともに、適宜「作者の言葉」を添えた。【第二号】	P.61-69
資料	技法や用具の使い方、発想の広げ方などを掲載し、生徒自身が必要に応じて参照することで、自主及び自律の精神をもって学習を進められるように配慮した。【第二号】	P.71-73
	我が国の伝統と文化とともに他国を尊重する態度を養うため、日本および諸外国の美術史についての解説を掲載した。【第五号】	P.74-75

編修趣意書

学習指導要領との対照表

※受理番号	学校	教科	種目	学年
107-133	高等学校	芸術科	美術Ⅱ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	美Ⅱ 038-901	美術2		

▶ 1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色

1

主題生成のための手がかりを示す

— 発想を広げる手立てや制作の過程を、詳しく紹介している教科書です。

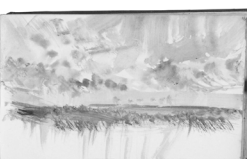
作家のスケッチブック

さまざまな作家のスケッチブックを紹介


・「画家」「彫刻家」「デザイナー」「建築家」のスケッチを掲載しました。身近なモチーフを描いたもの、作品の構想をまとめたものなど、多様なスケッチを鑑賞し、表現の参考にすることができます。

PAINTER


多くの画家が、本格的な制作に入る前にスケッチをする。スケッチを量産していく中で、作品のイメージが広がり、深まっていく。



風景のスケッチ
作家名 田中元三 1850m
1815年頃
サイズ 縦横約15cm
アート・コレクション「アムステルダム」
※制作年不明
1775-1851イギリス
コーナーは、風景を多く描いた画家。田中元三は、風景や人物のスケッチを多く描いた。このスケッチブックは、田中元三のスケッチブックの複製品である。



1815年「長崎の島」のスケッチ
サイズ 縦横約15cm
縦横約30cm 1941年
アーティスト「ジャン・ジャコブ」
1800-1880フランス
田中元三のスケッチブック
田中元三は、風景や人物のスケッチを多く描いた。このスケッチブックは、田中元三のスケッチブックの複製品である。



作家のスケッチブック
作家名 田中元三 1850m
アーティスト「ジャン・ジャコブ」
1800-1880フランス
田中元三のスケッチブック
田中元三は、風景や人物のスケッチを多く描いた。このスケッチブックは、田中元三のスケッチブックの複製品である。



風合いのある用紙

●● スケッチブックを思わせるような、風合いのある用紙を使用しています。

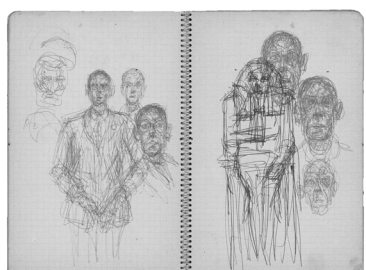
題材とのリンク

●● 解説文とともに、題材とのリンクを示しました。リンク先のページには、その作家が制作した完成作品を掲載しています。


▶ P.18 人物を描く

SCULPTOR

彫刻家は、粘土や石などの素材を削りながら、立体の作品を作ります。その過程で、多くのスケッチを描きます。



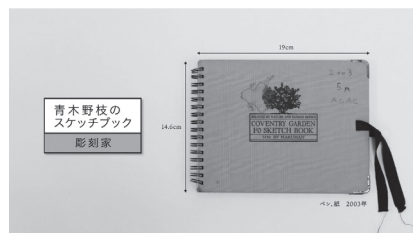
アーティスト「ジャン・ジャコブ」
1800-1880フランス
田中元三のスケッチブック
田中元三は、風景や人物のスケッチを多く描いた。このスケッチブックは、田中元三のスケッチブックの複製品である。



作家のスケッチブック
作家名 田中元三 1850m
アーティスト「ジャン・ジャコブ」
1800-1880フランス
田中元三のスケッチブック
田中元三は、風景や人物のスケッチを多く描いた。このスケッチブックは、田中元三のスケッチブックの複製品である。

▶ 動画で詳しく紹介

二次元コードから、掲載したスケッチブックの他のページに、何が描かれているのかを紹介する動画を見ることができます。



▶ 「青木野枝のスケッチブック」

特色 2

美術文化への理解をさらに深める

— 日本の美術について、より深く学ぶことのできる教科書です。

年表

日本の美術についての年表を新設

・「日本現代美術史年表」、「日本デザイン史年表」、「戦後日本の建築」の三つの年表を新たに設けました。近現代の日本の美術史について、理解をより深めることができます。



日本現代美術史年表

1945年 終戦が受理へ
第二次世界大戦の終結後、占領下に置かれた日本では、民主主義の理念のもとに社会変革が急進的に進められた。常態化させられなかった終戦による、戦中・戦時を伴っていた美術界が徐々に再編成され、戦前の体制に復帰する動きがみられた。1945年、1948年には国策芸術審議会が設置され、戦時体制下で活動していた作家を中心に戦後美術界の再編成が図られた。戦時体制下の「戦時美術」が終焉し、戦後美術の時代が始まる。また、国策芸術(国策美術)は、戦時体制下の戦時美術の延長線上に位置づけられ、戦時体制下の戦時美術の延長線上に位置づけられる。

1950年 アヴァンギャルド運動
戦後の復興の中で、戦時体制下で育った作家の表現方法が模索された。戦時体制下の「戦時美術」が終焉し、戦後美術の時代が始まる。また、国策芸術(国策美術)は、戦時体制下の戦時美術の延長線上に位置づけられ、戦時体制下の戦時美術の延長線上に位置づけられる。

1960年 美術の時代を超えて
1960年代の前半には、戦時体制下の戦時美術の延長線上に位置づけられ、戦時体制下の戦時美術の延長線上に位置づけられる。

1970年 日本万国博覧会
1970年には「人間の進歩と繁栄」をテーマに、戦後初の国際博覧会が大阪で開催された。大阪万国博覧会(大阪万国博)は、戦後最大の国際博覧会として開催された。大阪万国博覧会(大阪万国博)は、戦後最大の国際博覧会として開催された。

1980年 ニューウェーブと表現の広がり
経済成長が続く日本には、美術界に建設的批評が相次ぎ、民間企業のアートスペースが出現。その一方で「ニューウェーブ」とよばれる若手作家の一派が活躍した。彼らの「ニューウェーブ」の活動は、戦時体制下の戦時美術の延長線上に位置づけられ、戦時体制下の戦時美術の延長線上に位置づけられる。

P.32~33
「日本現代美術史年表」

特色 3

美術の可能性や役割について考える

— 最新の技術を生かした作例や、社会の課題を解決する取り組みを取り上げた教科書です。

新しい題材

エンジニアリングを生かして制作された作品や、環境負荷を軽減するデザインを掲載

・数学や物理学などの知識や科学技術を応用してものをつくる「エンジニアリング(工学)」を生かして制作された美術作品や、環境問題に取り組んだデザインの例を掲載しました。

美術とエンジニアリング

数学や物理学などの知識や科学技術を応用してものをつくる「エンジニアリング(工学)」を生かして制作された美術作品や、環境問題に取り組んだデザインの例を掲載しました。

「第一高度数」の活用
「第一高度数」は、数学の分野で重要な概念の一つです。この概念を活用することで、美術作品のデザインに新たな可能性が生まれます。

環境に配慮したデザイン

最新の技術を生かした作例や、社会の課題を解決する取り組みを取り上げた教科書です。

環境に配慮したデザイン
最新の技術を生かした作例や、社会の課題を解決する取り組みを取り上げた教科書です。

編集上の留意点	
教育基本法・学校教育法との対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法、学校教育法の理念を踏まえ、美術の学習を通して幅広い知識と教養を身につけ、さらに「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力」など、生きる力を支える能力を養えるよう配慮しました。
学習指導要領との対応	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の目標および内容をもれなく指導できるよう、題材を選定・作成しました。 ・各題材の目標を明確にし、表現や鑑賞の活動を通して「発想や構想に関する資質・能力」、「技能に関する資質・能力」、「鑑賞に関する資質・能力」を着実に身につけられるよう、全体を通して系統的に配列しました。
題材の配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ・「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」の分野ごとに全体を構成し、生徒が学習の内容をイメージしやすいよう配慮しました。また巻末に、材料と用具や美術史に関わる内容をまとめた資料を設けて、生徒が必要に応じて活用できるようにしました。
掲載作品の選定	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階や生徒の学習意欲を喚起することを考慮して、作品を選定しました。 ・特に発想・構想のしかたに着目して選定した生徒作品を随所に掲載しました。
主体的・対話的で深い学びへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材の作品の掲載意図を明確にし、生徒が主体的に学習に取り組めるようにしました。 ・作家の制作過程を詳しく示すことで、「自分ならどう作品をつくりたいか」と主体的に考えられるよう、工夫しました。
〔共通事項〕への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材に適宜、〔共通事項〕に関わる問いかけや解説を入れ、生徒が〔共通事項〕を意識できるようにしました。 ・巻末資料で、色彩など〔共通事項〕に関わる内容を取り上げました。
ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードから、鑑賞を深める資料や表現に必要な技法の資料などを視聴できるようにしました。 ・高校生がICT機器を用いて制作した作品を掲載するなど、端末を効果的に活用するイメージがもてるようにしました。 ・生成AIを活用する際の注意点について、個人情報保護の観点や、著作権の意味を踏まえて紹介しました。
SDGsとの関連	<ul style="list-style-type: none"> ・美術とSDGsとの関連を意識して学ぶことができるよう、環境に配慮したデザインを鑑賞する題材などを設定しました。
伝統・文化の取り上げ方	<ul style="list-style-type: none"> ・日本美術を大きく取り上げてそのよさを感じ取らせる工夫をし、我が国と郷土を愛する姿勢を育成できるようにしました。
多様性の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・掲載作品は、地域や時代、性別に偏りが出ないように配慮し、選定しました。
特別支援教育への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育やカラーユニバーサルデザイン（色覚特性）の観点から、教科書の全てのページについて専門家の校閲を受けました。 ・図版と図版の間を空けたり、罫線を引いたりして、境界を明確に区別できるようにしました。
製本・印刷など	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞図版や文字が鮮明に印刷できる、発色のよいコート紙を使用しています。 ・環境への負荷が少ない、用紙・植物油インキを用いています。 ・製本は堅牢で、生徒がページを開きやすいよう綴じ方も工夫しています。 ・「作家のスケッチブック」のページには、スケッチブックを思わせる風合いのある用紙を使用しています。

▶ 2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容				該当箇所
		A 表現	B 鑑賞	(共通事項)	内容の取扱い	
はじめに	人を、社会を変えていく		(1) ア (ア)	(1) アイ	(3)	P.2-3
絵画・彫刻	絵画・彫刻の扉		(1) ア (ア)	(1) アイ	(3)	P.4-5
	心の中の風景を描く	(1) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	(1) (2) (3)	P.6-9
	生き物を表す	(1) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	(1) (2) (3)	P.10-11
	作品を読み解く「動植綵絵」		(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	(3)	P.12-15
	時代を超える琳派		(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	(3)	P.16-17
	人物を描く	(1) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	(1) (2) (3)	P.18-19
	素材と向き合う		(1) ア (ア)	(1) アイ	(3)	P.20-21
	不思議な空間をつくる	(1) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	(1) (2) (3)	P.22-23
	版表現の可能性	(1) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) ア (ア)	(1) アイ	(1) (2) (3)	P.24-27
	美術とエンジニアリング		(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	(3)	P.28-31
	日本現代美術史 年表		(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	(3)	P.32-34
	作家のスケッチブック	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (2) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) アイ	(3)	P.35-42
デザイン	デザインの扉		(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	(3)	P.43
	椅子のデザイン		(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	(3)	P.44-45
	心地よい空間をつくる	(2) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	(1) (2) (3)	P.46-47
	作品を読み解く ル・コルビュジエの建築		(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	(3)	P.48-49
	統一感のあるデザイン	(2) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	(1) (2) (3)	P.50-51
	環境に配慮したデザイン		(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	(3)	P.52-53
	防災のデザイン	(2) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	(1) (2) (3)	P.54-55
	世界に羽ばたく日本のファッション		(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	(3)	P.56-57
	日本デザイン史 年表		(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	(3)	P.58-59
	戦後日本の建築		(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	(3)	P.60
映像メディア表現	映像メディア表現の扉		(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	(3)	P.61
	写真表現の可能性	(3) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	(1) (2) (3)	P.62-65
	映像表現の広がり	(3) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) アイ	(1) (2) (3)	P.66-69
資料	学習を支える資料一覧	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (2) ア (ア) (イ) イ (ア) (3) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	(3)	P.71-75
	あとがき		(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	(3)	P.76-77